岐阜県森林技術開発・普及コンソーシアム　活動紹介　かわら版

第50号
R5.12.22

コンソーシアムの活動状況を知っていただくため、不定期でかわら版を発行しますのでご一読ください。

●「林業事業体経営研修～施業集約化×事業体会計～」を開催しました

令和5年10月31日～11月1日の2日間にわたり、作業の効率性や収益性を考慮した現場管理ができる中核的な森林技術者を育成するため、「林業事業体経営研修～施業集約化×事業体会計～」を開催しました。

前回（6 月）のおさらい
（右：新永代表、左：牧野氏）

当研修は、鹿児島大学が実施している出前講座「施業集約化と事業体会計」のカリキュラムを取り入れたもので、(株) 鹿児島総合研究所の新永代表、鹿児島大学の奥山氏、牧野氏を講師としてお招きしました。

6月に開催した1日コースの導入編に引き続き今回は「応用編」として12人が参加しました。今回は応用編ということで、3班に分かれ各班を林業事業体と想定し代表者（社長）を決め、事業体の運営方針を話し合い決めました。

森林所有者の特定作業の様子

年間事業経費の算出では、機械経費、人件費などの固定費、損益分岐点の算出を行い事業体の年間事業量を想定しました。次に仮想の森林簿と森林計画図から間伐事業区域を囲い、所有者ごと提案書を作成し、提案書をもとに各所有者への同意取り付けの演習を行いました。所有者の同意の取り付けでは、各班を所有者に見立て営業を行い、同意取得のシミュレーションを行いました。営業担当に意地悪な質問や拒否など、実際に起こり得そうな事態を想定した内容となっていました。これもカードを使用し、受け答えを行うものでした。同意がもらえなかった場合は、再度区域を見直し、所有者の洗い出しの作業を行っていました。

提案書作成の様子

事業完了後の精算では、想定した費用の差異を班内で話し合い、原因と対策をもとに2回目の演習を行いました。

また、事業地ごとに、搬出材積や丸太価格はトランプの要領でカードを引き、出た数量をもとに収支を算定するため、計画通りの収入には至らず、年間事業量を増加する班もありました。

森林所有者への同意取得

参加者からは、「よく作りこまれた講義内容で講師の説明も丁寧で分かりやすかった」「事業体の役員方にも理解してほしい内容」「プランナーになる人は受けた方が良い研修」というご意見をいた

だきました。

● 日独連携「獣害対策研修会２０２３」を開催しました

11月20日～23日まで、ドイツ：ロッテンブルク林業大学から狩猟学を専門にしているトルステン・バイムグラーベン教授が来日され、岐阜県内でのニホンジカの対策や被害状況など視察をし、最終日には「野生動物と獣害対策を考える」と題しシンポジウムを開催しました。

視察先は、管理する立場（行政）、食害等の被害を受けている立場（林業事業体）、狩猟を行う立場それぞれの立場からバイムグラーベン教授と意見交換を行いました。

管理する立場として、美濃加茂市役所のＩＣＴ機器を導入した有害鳥獣駆除の取組みを視察し、食害等の被害を受けている立場から、(有)根尾開発の植栽地を視察しました。この現場では、10年ほど前に植栽した苗木が、盆栽のように30センチ程度の大きさで今でも残っていて、ニホンジカ生息密度も高く林業の経営を行うには非常に厳しい地域でした。

バイムグラーベン教授に「この現場を見てドイツの狩猟者はどう思うか？」と聞くと「最高じゃないか！なぜ日本の猟師は、ここで狩猟をしないんだ？私の友人を50人連れてきて、1か月ここに寝泊まりすれば、100頭は捕獲できるね。そうすれば木が育ち林になる」とのコメント。さらに「景色もいいし、ここでビアガーデンをやればいいんだよ」と山に人が入ることにより、野生生物が近寄ってこない。これも対策の一つというお話をされました。このコメントに同行した方々はあっけに取られていました。この考え方の違いは考えさせられます。

狩猟をする立場として、郡上市の猪鹿庁の取組みを視察させていただきました。ここでは、わな猟の方法や銃による捕獲のほか、ジビエ（試食あり）についても意見交換をしていただきました。ドイツでは捕獲する動物に対して苦痛を可能な限り軽減するという配慮があるため、わな猟は導入されていないそうです。

最終日にシンポジウム「野生動物管理と獣害対策を考える」と題しシンポジウムを開催しま

した。シンポジウムには、野生動物管理推進センター　日下部氏、岐阜県猟友会　大野会長、コンソーシアム　小澤委員長、森林文化アカデミー　新津講師、ロッテンブルク林業大学　バイムグラーベン教授にご登壇いただき、それぞれの立場での取組みや現状など報告していただきました。

　バイムグラーベン教授から、ドイツも日本同様にシカなどの獣害被害が問題になっている。また、対策に関してマイクロプラスティックの問題もあり、獣害対策はコストとゴミ（いずれゴミとなる資材）を残すこととなる、このバランスをどう考えていくのかが必要。獣害対策には、様々な規制がある中で、行政を含め林業関係者と狩猟者が連携して進めて行くことが、より重要になってくるというお話をされました。

　今回の研修会の様子は、森林文化アカデミーのブログにも掲載されていますので、そちらもご覧ください。

森林文化アカデミーHP：https://www.forest.ac.jp/academy-archives/forestry_1128/

コンソーシアムで取り組んでほしい活動などありましたら、事務局までお気軽にご連絡ください。

発行：　岐阜県森林技術開発・普及コンソーシアム 事務局（岐阜県立森林文化アカデミー内）
〒501-3714　美濃市曽代88　／　TEL:0575-35-2535　／　FAX:0575-35-2529
E-Mail: gifu.shinrin.conso@forest.ac.jp